

2011 年度後期学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント —経済学部—

経済学部長 杉 本 義 行

今回、経済学部開設科目（法学関連科目を除く）で後期開講科目 300 科目のうち、アンケート実施が義務付けられた科目は、実施が任意であるゼミ、演習、受講者 10 名未満の科目の計 105 科目を除いた 195 科目でした。そのうち 193 科目と実施が任意の科目のうち 47 科目、つごう 240 科目についてアンケートが実施され、延べ 6,537 名の経済学部生のみなさんからご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。

アンケート実施が任意の科目を除いたアンケート実施率は、99.0%であり全学の平均 97.8%よりも高く、また、すべての学部等でトップでありました。アンケートの実施に対する経済学部専任・非常勤の先生方のご協力にも深く感謝いたします。

私は今回、コメントを作成するにあたり、学部全体の集計結果はもちろんのこと、アンケートが実施された 240 科目すべてについて科目ごとの個別集計結果ならびに記述による「授業に対するコメント」に目を通したことを、まずご報告いたします。

さて、対象となった後期科目の「総合評価」の学部平均は、5段階評価で 4.16（前期 4.04）であり、概ね良好な結果であったと考えます。設問ごとの結果と総合評価との相関係数をみると、傾向としては前期の結果とおおきな変化はなく、「当該分野への関心と学力が得られた」という項目が 0.78 と相関係数が一番高くなっています。実際、学生のみなさんによるポジティブな評価のコメントを読むと、「わかりやすい」「興味をもてた」「自分の人生にとって役に立つ授業だった」などと授業内容自体についての記述が多くみられました。

他方、コメントの中で「問題点」として「私語に対して注意がされていない」「私語で集中できない」などの指摘がいくつかの科目でありました。良質な教育サービスの提供が期待される大学としては、良好な学習環境の確保に教員が十分配慮する必要があることは当然のことです。それと同時に、学生のみなさんもこうした学生の訴えがあることに留意して人の話を聞く際のマナーの改善につとめるなど、学生・教員双方の努力が必要であると考えます。

その他の項目では、「板書の字の見易さ」や「話し方の明瞭性」が学生のみなさんからの指摘が多い項目です。また、遅刻を含めた「授業時間の有効な利用」に関しては、厳しい指摘がなされている科目もあります。私が学生時代の 30 数年前には「アカデミッククォーター」などといって授業開始 15 分が経過したあたりから教室へ向かうのが慣例だと当時の教員は述べていましたし、我々学生もそういうものだと考えていましたが、過去の話です。mind-set をかえる必要があります。

個別科目の授業評価アンケートの結果は、記述によるコメントも含めて各担当教員の先生方に直接お届けしてあります。今回の結果を踏まえ、私自身もふくめて、指摘された点を真摯に受け止め、授業の一層の質向上につとめたいと考えます。